

**実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。**

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2810417
園名	日野ふたば幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

数や図形などの体験を増やして考える力を身につける

<テーマの設定理由>

・具体物や教材を通じての活動を行い、実体験の中で探求心や好奇心が生まれる。数や図形の教材ではじっくりと考えて取り組み、「自制心」や「忍耐力」「やり抜く力」を養う。毎週のプログラムで身につけた力を日常生活の中で反復、応用出来る。

2. 活動スケジュール

5月8日（言葉の音の数）15日（位置を表すことば）22日（数量 多い少ない）
6月5日（話の記憶とスピーチ）12日（重さと量）19日（三角形パズル（折紙））
26日（長さを比べる）
7月3日（等分）10日（順番 チャンピオンは誰）
9月4日（位置表現（動物マントン））11日（三角パズル 触って形を当てる）
18日（位置表現（方眼））25日（タイヤの数を数える）
10月16日（いくつずつ何個分）23日（詩の音読 話の記憶）
11月6日（立方体折紙）13日（等分）27日（積み木で形作り）
12月4日（しりとり遊び）
1月15日（数の変化 合わせて10になる数）22日（並び方の決まり 名前を書く）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

(準備したもの) 折紙、おはじき、積み木、ペットボトル、色水、カップ、シリンダー他
(活動内容)

毎回のテーマに沿って、教材を用意。実際に教材に触りながら幼児が考えを深めた。講師や教師の問いかけに、自分なりの考えを表現したり、不思議に感じたこと等を話し合ったりする姿があった。一例として、同じ水の量でも入れ物が変わると、かさが異なって見えること、積み木を組み合わせる時に見えない部分について自分なりの考察を実践で動かし組立てるだけでなく、言葉にして表現するなど、見えていること、考えていること、表現することなど別の角度から捉えるといった経験は、幼児にとって難しいと感じる部分もあったが、教師が助言をすることで、理解に繋がったりおもしろい、不思議だなと感じることが出来ていた。



活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日常生活で触れているような教材を使用して活動が出来ているので、幼児達がスムーズに取り組みに参加出来ていた。一方で、角度を変えて考えたり、表現方法として、実践、身体表現、言語表現などを経験、また見えている部分と見えない部分の考察など改めて体験をすることで、不思議だと感じたり、なぜだろうと考え、探求する心が芽生えた。それにより幼児の考え方や視野、言葉などに広がりが見えるようになった。折紙 6 枚の立方体作りでは苦手意識を持つ幼児でも最後まで取り組み完成をさせることで、達成感や自信に繋がっている様子も見られた。プログラムの時間にかかわらず、課題と似たような場面では、応用して考え、表現する幼児の様子も見られた。

**実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。**

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2810417
園名	日野ふたば幼稚園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

造形教室（陶芸）自由な発想を楽しく形にしていこう

＜テーマの設定理由＞

自然物である土に触れ、感触や可塑性を楽しみながら自分なりの思いで形づくりを楽しむ事ができる。当園には陶芸用の窯があり、専門講師による活動を行っている。目的をもって制作しイメージ通りにできあがることもあれば、イメージとはちがう出来ばえになることや、偶然的にできあがる作品もあり、その面白さを感じ、探究心や最後までやり抜ける力を身につける。友だちの作品作りを見て、互いに気付きが生まれる。自分が作った作品を丁寧に大切に扱うことで友だちの作品もまた大切に思う気持ちが育つ。

2. 活動スケジュール

6月 年長 「陶芸の土を使って作る」土を使った物作りを楽しむ。行程での土の感触や可塑性を楽しむ
 9月 年中 「丸い形から始まる造形あそび」球体の土を叩いて伸ばしたり、指で穴を開けたり模様や飾り付けを考え、イメージを広げる。
 11月 年長「自分の顔を作ろう」自分の顔を触って凹凸や特徴を表現する。これまでの経験を踏まえ、土（粘土）の造形を行う。
 12月 年中 作品発表会 窯で焼きあがった自分の作品を受け取り、出来上がりを確認し、作品について様々な気持ちを発表し合う。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

(準備した素材や道具など) 白楽土(粘土)、粘土板(ベニヤ板) どべ、陶芸窯、はか
(活動内容)

幼児は造形あそびや粘土での遊び(活動)は好きな子が多く、取りかかりも比較的スムーズで、グループの友だちと会話を楽しみながら取り組んでいた。中にはイメージを形にすることに苦手意識を持つ子や、イメージすることが難しい、自信がないといった場面も見られたが、講師や教師が助言や言葉がけをすることで、自分らしい取り組みがそれぞれ出来た。イメージがどんどん広がり、作り始めとは違う出来栄になることもあり、ストーリーを話始める姿も見られた。

また、年長児は、造形教室の準備室の見学、講師との交流(話のやりとり)、窯の見学も行い、活動に興味、親しみをもって行った。出来上がった作品に対し、教諭の方から注意をしなくても、それまでの過程により、子ども自身から、作品を丁寧に扱う姿勢が見られ、それは友だちの作品についても同様に大切なんだという姿勢がみられた。



活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年中では、自分の粘土以外で初めて土の粘土に触れた子がほとんどであり、はじめて触れる素材に躊躇する子もいたが、興味津々で行っていた。土の冷たさや柔らかさ、ずっと触っているとボロボロに（土に）なる変化などを感じながら行っていた。焼き上がるまでは数ヶ月を要するが、自分の形作った作品が、焼成され堅くなって手元に来たときにより愛着がわいていたようだった。一人ずつ作品を見せ合い、作品名を発表する会を設けて、自他の物の大切さについても学ぶ事が出来たように感じた。

年長では、1回目、2回目と経験をしていくことで、素材との向き合い方も変わり、自信を持って取り組むようになっていた。自分で「どうしようかな」とイメージを持ち、土を目の前にしてすぐさま取りかかろうとしたりする姿も多く見られた。「窯ツアー」と称して、講師が案内する形で陶芸窯を見学し、自分の作品がこの場所で焼き上がるイメージをもち、さらに身近に感じられたようだ。

子ども達がみな自分のイメージを膨らませ、自身の気持ちのままに形にしていき、それが焼き物として完成する活動は、子ども達にとって探求心や想像力を働かせ、楽しく、そして非常に達成感がある活動だと思う。